

文系博士院生の生態



東京外国語大学MIRAI生有志



そろそろ進路についても考えないと…。周りはみんな就職するって言っているけど、私もこのまま就職でいいのかな…。せっかく専攻語の勉強が面白くなってきたのに…。

メイちゃん、進路に迷っているなら、大学院も選択肢に入れてみない？



ペンギンさんは外大の博士課程の院生です。勉強好きなメイちゃんも研究に興味はあるようですが、将来絶対に大学の先生になりたいってわけではないし…と迷っている様子。

文系の博士後期課程の大学院生（以下「院生」）が何をしているか、あまり知られていないかもしれません。実際、どういう生活を送っているのでしょうか。今回は、メイちゃんと一緒に、院生の生態を探っていきます。早速、ペンギンさんが、大学院で知り合ったMIRAIフェローシップの仲間を連れてきました。

MIRAIフェローシップって何？

MIRAI（多文化共生イノベーション研究育成）フェローシップ
Multi- and Inter-cultural Research and Innovation Fellowship

MIRAIフェローシップは、本学の大学院博士後期課程の大学院生を対象として、研究深化・キャリア開拓を支援するプログラムです。博士学生に自身の高度な専門性と研究能力をより広い社会の文脈で生かしてもらうことを目指し、異分野との研究交流や、社会課題の現場へのフィールドワークの機会を提供しています。

D2（博士課程2年目）のペンギンだよ。
アジアの社会保障について、例えば、フ
リーランスの人の保険問題について研究
しているよ。専攻は中国語だったけれど、
英語と韓国語も話せるよ。



私はD3の柴犬よ。日本語教師兼大学院生
で、研究テーマは日本語の条件（たられ
ば）表現なの。私は大学院に入る前に社
会人経験があるわ。



同じくD2のネコです。私は人間の認知の
基本的な概念である「時間」をドイツ語
がどのような言語手段で表現しているか
を研究しています。学部的时候は経済学
を専攻していましたが、留学をきっかけ
に、修士課程から言語学に変えました。



次のページからは、MIRAIに所属する院生たち15人に
協力してもらったアンケート結果を交えつつ、院生の生
態を紹介していきます！

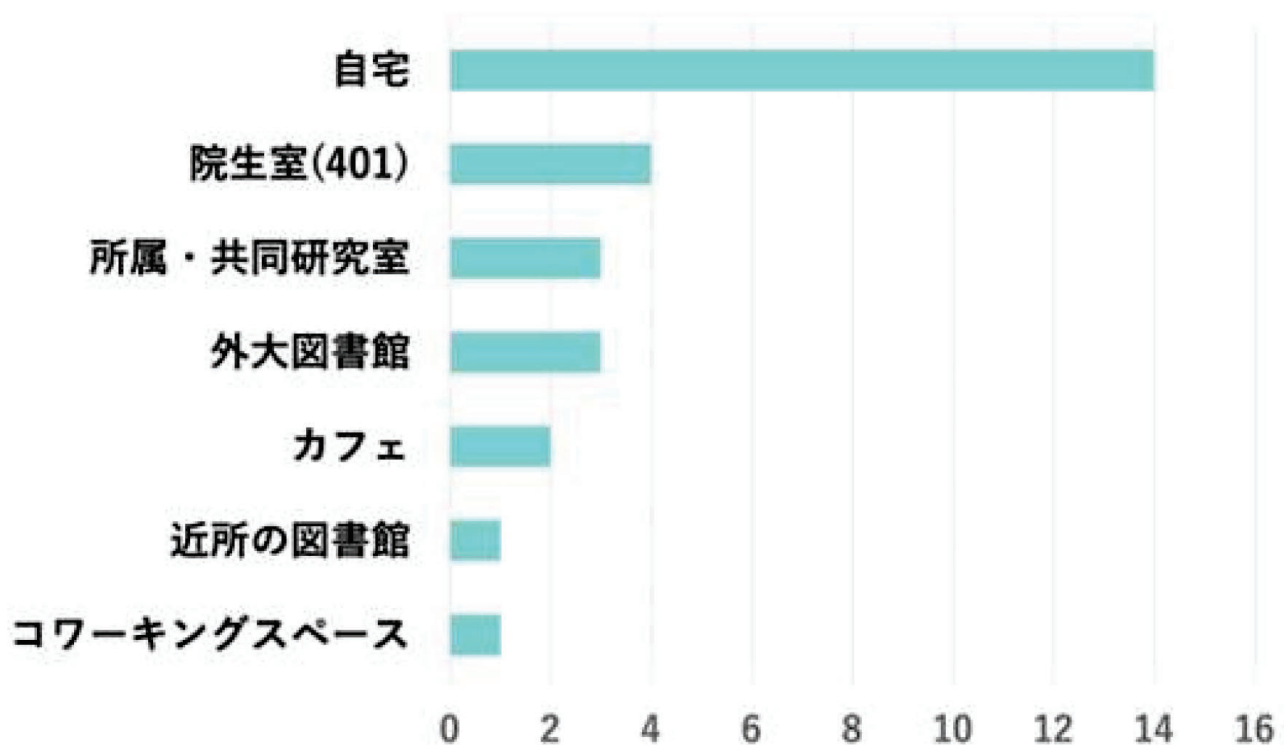
目次

- プロローグ-----1,2
- 研究生活----- 3,4
- 仕事・アルバイト-----5,6
- 院生の悩み、モチベ維持法-----7,8
- 進路-----9,10
- 院生の利点、エピローグ-----11,12
- おまけ「院生の語学勉強法」-----13,14

Q: 普段どこで研究している？

「院生って授業あるの？」とよく聞かれます。院生（特に博士後期課程）の必要な単位数は学部と比べるとかなり少ないです。なので多くても週に3コマ、2, 3年次になると授業がない人もたくさんいます。

キャンパスで遭遇することは少ない「レアキャラ」の院生は、いったいどこに生息しているのでしょうか？ 皆さんが普段どこで研究をしているのか聞いてみました。（複数回答可）



日常的にラボに行かなければならない理系院生と比べ、文系の研究はパソコンや資料があればどこでもできるケースが多いです。それでも何人かは研究場所としてキャンパスに通っているようです。研究室にこもりきりというわけでもなく、自宅でもできることから、東京に住んでいない場合もあるようです。



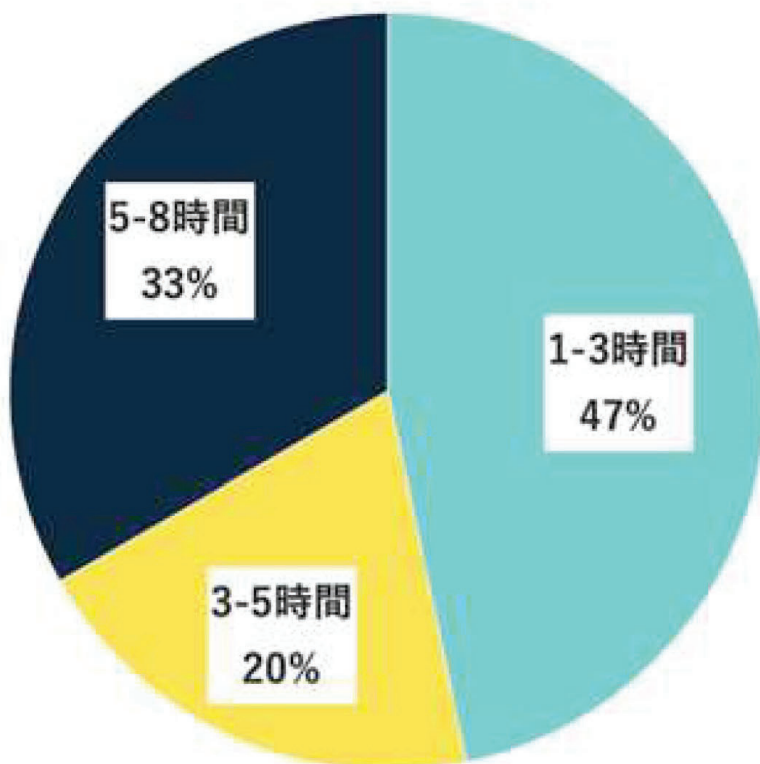
ところで、院生って一日中研究しているんですか？

人によりますね。フルタイムで仕事をしている人もいるし、私の知り合いで子育てしながら研究している人もいます。



Q: 1日に平均何時間勉強・研究している？

「院生は一日中研究している」そのイメージは合っているのでしょうか。実際に1日に何時間勉強・研究しているのか聞いてみました。



1時間未満と回答した人はいませんでした。仕事の有無や学年の違いなどの個人差はあれど、皆さん毎日コツコツと研究を続けているようです。

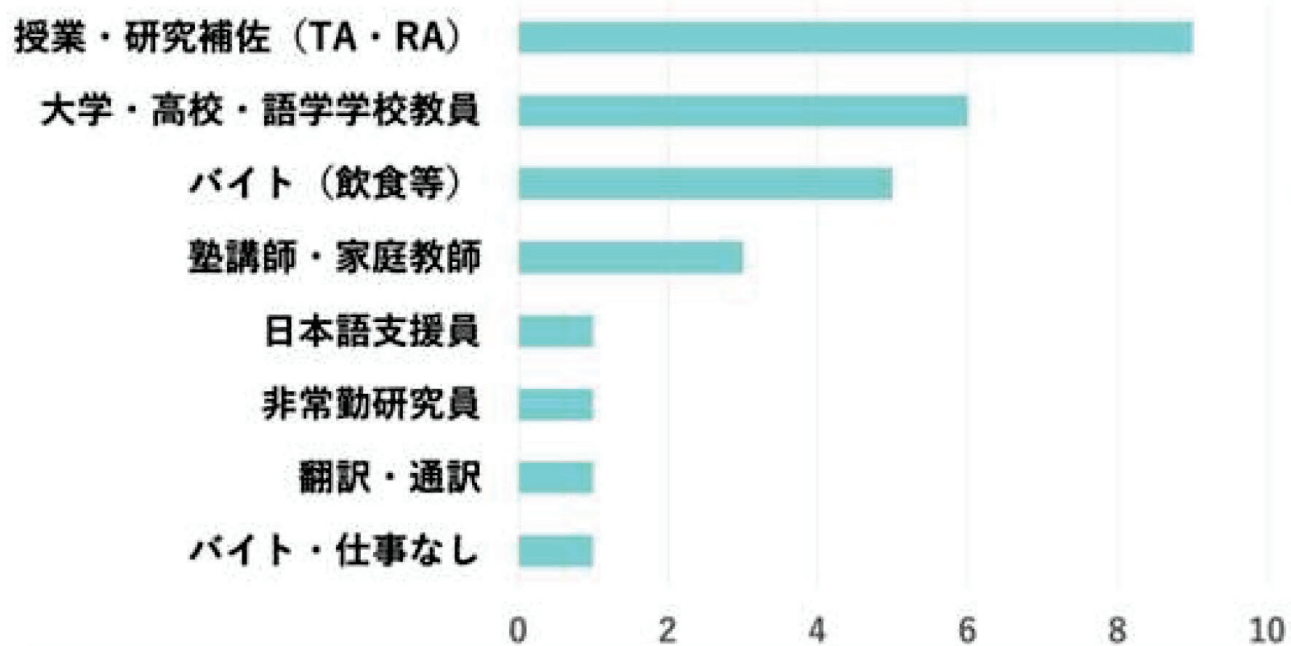
仕事・アルバイト



そういえば、さっき仕事をしている人もいるって言ってましたけど、実際、皆さんどんな仕事をされているんですか？

Q: アルバイト・仕事はしている？ どんな仕事をしている？

学部生と同じく、院生の多くもアルバイトや仕事をしています。また、多くの回答者がいくつかの仕事を掛け持っていることがわかりました。（複数選択可）

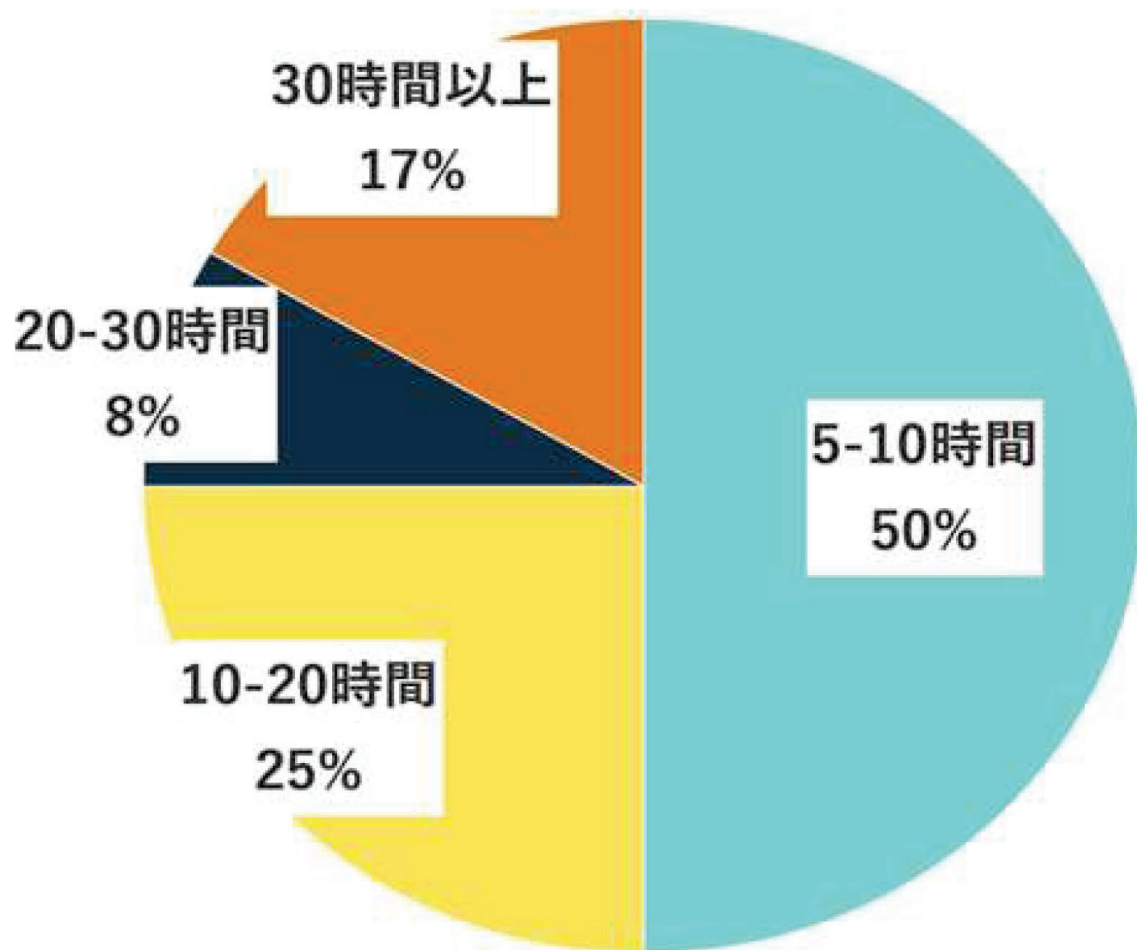


授業・研究補佐や教員など院生ならではの
お仕事もあるね。この経験はキャリアにつ
ながるんだね。



Q: (アルバイト・仕事をしている場合) 週に何時間働いている？

日常生活の出費に加え、フィールドワーク（国内外）に出かけるなど研究生活上での出費もあります。そんな生活の金銭的支えとして欠かせないのがアルバイトや仕事。大学外での仕事は研究からの頭の休憩になったり、家にこもりきりの院生が社会と関わる貴重な機会になったりもします。



中にはフルタイムで働きながら研究を進める猛者もいるのよ。

院生の悩み、モチベ維持法



本当に人それぞれなんですね。皆さん、やる気もあって、時間管理もできて、すごいですね。

でも、院生にも葛藤や悩みがあるんだよ。



そうそう。私は仕事と研究の両立が大変。生活のことを考えると、どうしても仕事を優先してしまって研究が進まないのよね…。



私は最近スケジュール管理が課題。定期的に運動もしないとな…。



なるほど。博士課程に進む人って、強い意志を持って突き進む人ってイメージだったけど、うまくいかなくて悩むこともあるんですね。なんだか身近に思えてきました。



2023年度第8回MIRAIゼミ

「院生の精神衛生を語る」ではみんなの悩みや不安を共有しました。

モチベ維持法

3年間（またはそれ以上）の長い研究生活はアップダウンもつきもの。皆さんどのように研究のモチベーションを維持し、ストレスを解消しているのでしょうか？

Q: あなたの研究ライフを支えるものは？

（モチベーション源、ストレス解消術・グッズなど）

- 学会発表先での観光
- リップクリーム（スースーしていい感じになる）
- 院生の友達と研究について話せること
- ペットとのふれあい（イヌ、オカメインコ）
- 水泳、サイクリング
- ぬいぐるみ
- 進捗報告、諸々の締め切り

私は甘味で癒やしを得ているわ。それとデスクワークだから、座り心地のいいゲーミングチェアは必須ね。



私は濃い目のブラックかアイスアメリカーノ！それと落書きの時間かな。

中にはモチベーションの源に「怒り」を挙げる人もいました。社会問題などをどうにかしたいという強い思いがあるのでしょうかね。



進路

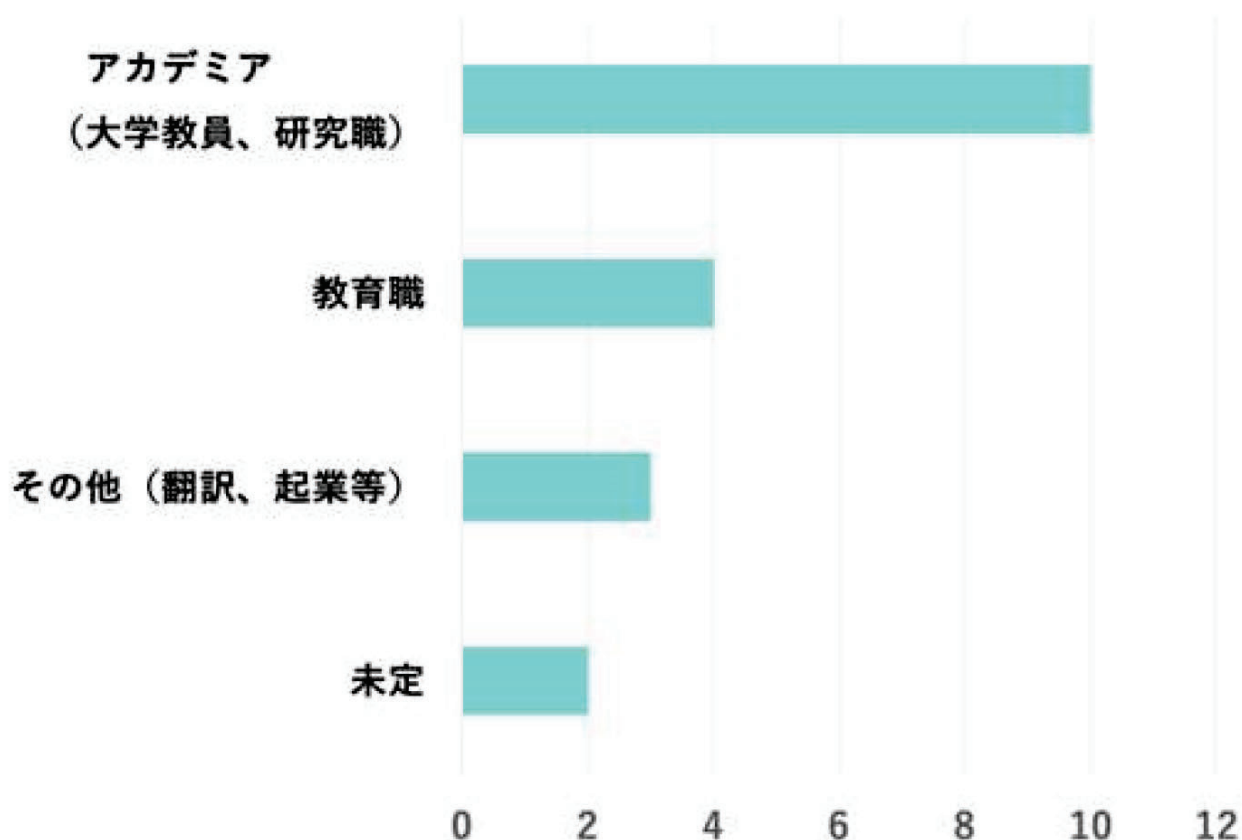


でも、大変な中で、大学の先生になるために、皆さん頑張っているんですね。

まあ、たしかに文系院生の鉄板の就職先といえばアカデミアだけど、必ずしも大学の先生を目指している人ばかりじゃないよ。



Q: 博士課程修了後に想定している進路は？



※複数選択可

アカデミア（またの名を研究職）は、大学または何らかの研究所で専門を生かして研究に携わる仕事です。それ以外では、語学教師（日本語・外国語）や学校教員など教育に関わる職種を希望している人もいました。

「アカデミア以外でも文系博士の学位と専門性を持って活躍する人材を増やす」というのは、社会の課題でもありますよね。



アカデミアを目指すことも視野に入れつつ、それ以外の選択肢も積極的に模索していきたいわね。



MIRAIでは企業や地方自治体と関わりを持つ機会もあります。下の写真は現在始動している山形県高畠町との協働企画の様子です。



町の若手リーダーと意見交換し、取り組みを見学させてもらいました。



2024年3月の訪問時には
辺り一面雪景色になりました。



博士課程に進んだからといって、必ずしも大学の先生を目指さなくてもいいんですね。それに、研究以外にも身に付けられることがありそうです。

院生の利点



ところで、皆さんは院生になって良かったことって何ですか？



学割が使えること！



いきなりスケールの小さい話になったな…。でも院生は経済的に不安定だから、学割が使えるのは大きいね。



他にもこんな「良かったこと」がありました。

- 日々成長を感じられる
- 自分の研究テーマに時間をかけて向き合える
- 考える時間を確保できる
- 柔軟なスケジュール調整ができる
- 研究や分析のスキルを身に付けられる
- 仕事では得られない人間関係が築ける

研究者の卵として学会などで本格的な研究に触れられる一方、学生として寛大に接してもらえるなどの意見もありました。

研究について話せる仲間がいること、興味を持ったテーマや対象に向き合う環境と時間があること、という点を挙げた人は複数人いました。

大学院生活には大変なこともあります、進学して博士課程にまで進んだことは、自分にとって大きなプラスだと思っています。学部時代は、自分の興味があるテーマを見つけることで精一杯でした。大学院ではそれをじっくり深める時間が持てて、本当に良かったです。



研究は1人でもできるかもしれないけど、やっぱり研究の話を気軽にできる仲間や、一緒に頑張っている仲間がいるのが気に入っているわ。他の人の研究を知ったり、人それぞれの視点や考え方を聞いたりできるのも、刺激になるわね。



大学院かぁ…。ちょっと考えてみようかな。ペンギンさん、MIRAI生の皆さんの率直な意見を聞いて、大学院のイメージが前よりはっきりしてきました！

大学院は、自分の可能性を広げられる大切なステージだと思う。それに、今私たちがしている研究が社会の可能性を広げることにもつながると信じているんだ。大学院に少しでも興味を持ってもらえたら、うれしいな。



おまけ：院生おすすめの語学勉強法

耳から学習法

私は文を目で見るより耳から学習するのが自分に合っていると思っています。何かを暗唱したり口真似したりするのが得意な人は同じタイプかもしれません。まずは音声（ポッドキャストなど）を1日30分以上毎日聞きます。（初級の人にはゆっくりめのがあれば吉。）最初の頃は何を言っているのか分からなくても3か月から半年ほどで言語のリズムがつかめ、内容も理解できる部分が増えていきます。ちなみに話す練習には例文を口が覚えるまで丸暗記がおすすめ。（小田）

念写法

私は目で学習する方が向いていると思っています。暗記を位置でする人は似たタイプかもしれません。①覚えたい言語の文章や作文を目の前に用意。母語で意味を把握します。②カメラで写真を撮るように、目の前にある内容をパシャッと目に焼き付けます。③脳に焼き付けた内容を、紙に念写するイメージで一っ書いていきます。④文章を再現できたか原文と照らし合わせてチェック！ できていないところがあれば②に戻ります。再現できていない箇所をチェックすることで、理解が不十分な文構造や綴りの怪しい単語を効率的に発見し、自己テストと学習を同時進行できます。（沼畑）

たればスピーキング練習法

作文を続けるのはなかなかハードルが高いもの...そこで私は作文したいと駆り立てられる瞬間を逃さないようにしています。あれやこれや思い返す癖をいかして、特に会話の機会があった時など、後からうまく伝えられなかった部分を検索エンジンで文丸ごと、他にも使っている人はいないか調べながら、ああいう言い回しがあったのに、と反芻しているうちに自然と作文の練習になっている気がします。（洪）

編集後記：企業に勤める友人と会うと、「普段、何をしているの？」とよく尋ねられます。院生が何をしているのか、同じキャンパスにいた人々にすら知られていないことが多いようです。一昔前には「象牙の塔」と言われることもあったように、アカデミア—特に人文科学分野—は、社会とは少し距離がある場として語られることがあります。近年、政府や産業界でも博士人材の活用が謳われ、大学側では社会との共創が目指されていますが、人文科学分野においては、まだ道半ばと言わざるを得ません。そんな中で、今私たち大学院生にできることは、大学院での研究活動を知っていただくこと、より身近に感じてもらうことだと考えています。本マガジンが、その一助となり、人文系大学院への関心を深めていただけるきっかけとなれば幸いです。最後に、本企画の実現にあたり、企画、編集、デザイン、印刷等、さまざまな形でご協力くださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。（代表：沼畑）

マガジン「文系博士院生の生態」編集委員

石槁裕子、小田千敏、沼畑向穂、洪朝陽、大西達貴

スペシャルサンクス

MIRAI推進室の皆さま、アンケートに協力してくださった皆さま



TReND

TReND（学際研究共創）センター

Center for Transdisciplinary Research, Networking and Dialogue

TReNDセンターは、共同研究や学際研究、また本学で行われている研究成果の社会への還元に向けた取り組みを支援する組織です。

研究者同士、また企業・行政をつなげることで、専門の枠を超えて何かをやってみたい研究者にその機会を提供すると共に、研究者のキャリアの幅を広げることも意識しています。



MIRAI Webサイト

<https://www.tufs.ac.jp/mirai/fellowship/>

2024年11月20発行